

I 弱視生のiPad活用についての試行(2)

1. 生徒の実態

- 。高等部
- 。弱視

2. 目的

弱視生が黒板を見ることが困難であるため、黒板の代わりにiPadを使用し、円滑に授業を進めること。

3. 利用機器など

- 。iPad2

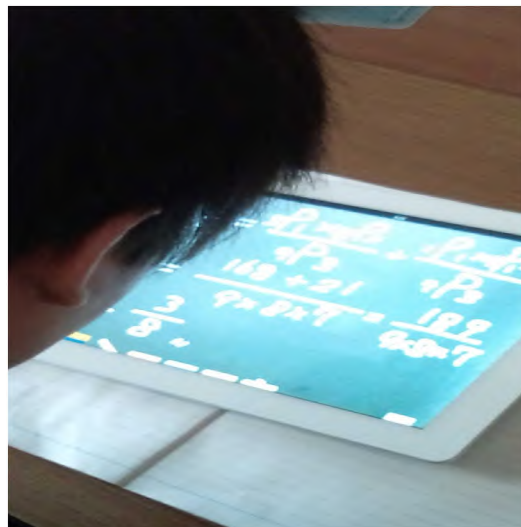
4. 使用アプリ

- 。黒板

5. 経緯・試行経過

教科は数学で、以前は黒板の文字を大きく書くなど工夫をし、授業を行っていたが、スムーズに授業をすることは難しいと考えられた。そこで、iPadを利用することにより、手元で板書が行われるため、以前より容易に板書の文字を読み取ることができるようになった。

また、書かれた画面は画像として保存することが可能であるので、後々見直すことが可能であるため、生徒がノートを取り損じるということがないのも生徒に好評である。



6. まとめと課題

対象生徒はこの黒板を使用することにより、今までよりも円滑に授業を進めることができるようになり、非常に満足している。

課題としては、2点ある。1つはiPadに書き込むことになるので、書く事ができる量が少ないことである。授業中でももう少し書きたいということがしばしばあった。もう1つは、bluetoothを使用しているので1対1の授業でしかしようできないということである。1対複数のアプリも現存するが、やはり動作が悪かったり、フリーズをよくするので現在は授業で使うことは難しいと考えられる。